

## 令和2年度 社会教育委員会（第4回）議事要旨

◇日 時

令和2年11月17日(火) 午後7時～8時50分

◇会 場

生涯学習センター 2階 学習室2

◇出席者

【委員】小松委員、鈴木委員、大西委員、松本委員、大島副委員長、西島委員、小林委員、大庭委員、土屋（浩）委員、土屋（八）委員長、横山委員、高橋委員、小田委員

【事務局】大塚生涯学習課長、高橋係長

【オブザーバー】勝又主査

◇会議次第

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 報告事項

①各種委員会の会議報告等

②令和2年度富士・沼駿ブロック社会教育委員研修会について

③成人式について

④市民活動の集い実施内容の報告

4. 協議事項

・「裾野市の未来につながる地域コミュニティづくり」について

5. その他

・第5回会議の日程について

6. 閉 会

## ◇審議経過

主な内容は次のとおり（○は委員の発言）

### 1. 開 会

### 2. 委員長あいさつ

裾野市でも感染者が出たりと、新型コロナウイルス感染症が落ち着きを見せませんが、4年目の「裾野市の未来につながる地域コミュニティづくり」の実現にむけて、地域クリエイターも参考にしながら話し合っていきたいと思います。

### 3. 報告事項

#### ①各種委員会の会議報告等

##### 第2回東部社会教育関係者等研修会（11/11、南伊豆町）

出席：松本委員、西島委員、横山委員、高橋委員、小田委員、高橋 計6名

講義：「家庭教育を支援する仕組みをいかにして形成するか」

講師：山野 則子 氏 大阪府立大学教授 人間社会学部・人間社会学研究科  
地域保健学域 教育福祉学類

#### ②令和2年度富士・沼駿ブロック社会教育委員研修会について

令和3年1月28日（木）に長泉町で、富士・沼駿ブロック社会教育委員研修会が開かれます。12月23日（水）までに生涯学習課へ出欠席のご連絡をお願いします。また、田方ブロック、賀茂ブロックの研修会に参加を希望される方は、生涯学習課へご連絡をお願いします。

#### ③成人式について

令和3年1月10日（日）に成人式を開催する予定となっております。今年度については、コロナ禍ということもあり式典実施回数を1回から2回に増やし、また、消毒作業等業務も増えているため、社会教育委員の皆さまにも可能であればご協力いただければと思います。

#### ④市民活動の集い実施内容の報告

日程：令和3年1月23日（土）

講師：学校教育課 指導主事 小濱係長（裾野市の現状について）

国立教育政策研究所生涯学習政策研究部

総括研究官 志々田 まなみ氏（学校を核とした地域づくりについて）

参加依頼先：スクールコーディネーター

市民協働によるまちづくり推進協議会委員

コミュニティ・スクール準備委員会委員

元気な地域づくり研究会の自治会関係者 → 全区長に変更

社会教育委員

### 4. 協議事項

- ・「裾野市の未来につながる地域コミュニティづくり」について

別紙

### 5. その他

- ・第5回会議の日程について

次回開催日： 2月2日（火） 19：00～ 生涯学習センター 1階 団体活動室

6. 閉 会 大島副委員長

## 裾野市の未来につながる地域コミュニティづくりについて

### 【今日のテーマ】

『コミュニティ・スクールの中に地域コーディネーターの要素を盛り込むためにはどうしたらよいか』

### コミュニティ・スクールのねらい・・・学校を核とした地域づくり (地域側からのねらい)

#### 〈前半〉

- CSディレクターは、地域に目を向けて地域の活性化を考えてもらう。
- 地域と学校が交流できる仕組みづくりが必要。
- スクールコーディネーター、学校、PTAの連携。それには事務局が必要になる。
- コミュニティ・スクールに何ができるか。
- 組織の単位はどうするかを考える必要がある。校区なのか、地区なのか。
- 仕事として成り立つような報酬等が必要ではないか。

#### 〈後半〉

テーマ：コミュニティ・スクールの中にどのように地域コーディネーターを組み込めるか

#### ○具体例：◎裾野高の地域連携

- ・学校を応援する地域の大人を増やす
- ・生徒の個のつながり
- ・「声のチカラ」プロジェクト

#### ◎深良用水まつり

- ・地域と中学生のつながりができる
- ・核になる人、グループの存在が必要である（地域コーディネーター等）

○地域コーディネーターの仕事は何か。具体化する。具体的な仕事の内容を決める。どんなことができるのか。

○地域コーディネーターがあることによってこんな風に良くなる、メリットを伝える。「裾野市の未来につながる地域コミュニティづくり」のためにどんなことができるか。

○学校だけにとどまらない。学校以外の部分も調整することが必要。

○学校の活性化、地域の活性化の両方に繋がるとよい。同じ目的に向かっていける。

○学校にもメリットを明確にする。（地域コーディネーターがあることによって）

○学校に重きをおくのではなく、学校と地域を活性化することに重きをおける人がよい。地域の思いをまとめるような人がいないと、地域の方向性があやふやになってしまう。

○地域と学校の思いをすり合わせることのできる人がよい。

○地域の未来の視点をもつ、地域のビジョンを持つ。

例：裾野高の地域連携

- ・個としてつながる場をつくる
- ・裾野高生を応援したい大人を増やす

○人材の発掘が難しい。

○地域コーディネーターとはどういう人なのか、どういうことをしてもらうのか、地域がどうなってほしいのかを考える。